

「法律を制定し  
に關わっていると  
その集団が「犯罪  
れ、登録・監視  
とされたのであ  
「とされた人達  
をもっていた。そ  
。羊飼いのノマ

分類の方法も難しい。  
そこで俄かに脚光を浴びたの  
が、指紋だった。指紋は「万人  
不同」「終生不変」。しかも、  
膨大な器具を必要としない。「指  
紋法」は一気に統治の方法とし  
て導入され、瞬く間に世界に拡  
大していった。そして、その技

は多様化し、市場化している。  
私たちはもはや誰に何の目的で  
管理されているのかさえ分から  
なくなっている。この状況を相  
対化するうえでも、本書は有用  
な視座を与えてくれる。近代的  
統治の本質とその未来を見通す  
重厚な研究成果だ。

焚陷車があること  
もそれをネットの  
「ラパゴス」の名で  
少ために殺された。  
強犯にたどりついた  
子正規社員だった彼  
員にしてやると言  
と告白する。加害  
者だった。「田川  
活の中でも最も哀  
んでいた」。自分  
ったらどうするか  
も田川は思う。

量か明らかになった  
鼻者に支えられてい  
歪な姿が見えて  
き、最後に呟く。  
「普通」にメンが  
に家族と過す。  
前のことが難しく  
って、どこか狂っ  
。たちの無念を思う  
て作者の静かな怒  
をわっている。

# COVER DESIGN



20世紀初めに英国に日本の桜を紹介し、普及させたコリン  
グウッド・イングラムの生涯を描く『チェリー・イングラム』  
(阿部菜穂子著・岩波書店・2484円)。カバーは旧イングラ  
ム邸の庭に咲くオリシナルの桜「太白」。その上に、サクランボ  
をかたどったイングラムの「CI」のサインが記されている。

## 夏目漱石没後100年特別展

神奈川近代文学館(横浜市中区  
山手町)は26日~5月22日、特別  
展「100年目に出会う夏目漱石」  
を開催する。展示は、夏目漱石(1  
867~1916年)の複雑な生  
い立ちから、松山や熊本での教師  
時代、孤独な英国留学までの第1  
部と東京帝大の教壇に立ち、「吾  
輩は猫である」でデビューしてか  
らの多彩な作家活動の第2部、鏡  
子夫人の口述書や漱石の書簡など  
を通じてその人間性に迫る第3部

に分かれる。

期間中、開かれるイベントは、  
作家の水村美苗さんによる講演  
(4月16日)▽市川崑監督の映画  
「こころ」上映(同22、23日)▽  
漱石の孫でマンガコラムニストの  
夏目房之介さんの講演(同29日)  
▽作家の奥泉光さんといとうせい  
こうさんの文芸漫談「夏目漱石玩  
夫」(5月21日)など。  
入館料は一般700円。月曜休  
館(5月22日は開館)。問い合わせ  
せは同文学館(045・6222  
6666)。